

「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

(1) 目標値の達成状況

本計画では、令和14年度を目標年次として達成すべき7つの具体的な数値目標を掲げています。

令和5年度は、7つの数値目標のうち、総排出量・家庭系ごみ排出量・事業系ごみ排出量・焼却処理量・再生利用率は目標値を達成しましたが、最終処分量・温室効果ガス排出量は目標値を達成しませんでした。

表1：目標値と実績値の比較

	令和5年度			令和14年度 (目標年度)
	目標値	実績値	達成状況	
総排出量 ¹ 【1人1日あたり(g)】	939 g (336,322 t)	935 g (335,513 t)	○	850 g (298,000 t)
家庭系ごみ排出量 【1人1日あたり(g)】	472 g (169,017 t)	458 g (164,631 t)	○	394 g (138,000 t)
事業系ごみ排出量 【総量(t)】	69,659 t	66,115 t	○	62,000 t
焼却処理量 【総量(t)】	233,198 t	226,035 t	○	196,000 t
再生利用率 ² 【総排出量中に占める割合(%)】	33%	34.6%	○	38%
最終処分量 ³ 【総量(t)】	15,524 t	16,434 t	×	8,600 t
温室効果ガス排出量 【総量(t)】	108,352 t	115,378 t	×	71,000 t

¹ 総排出量：以下の①、②、③の合計÷人口÷365日（閏年は366日）×1,000,000で算出

①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、剪定枝等）、粗大ごみ）

②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）

③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

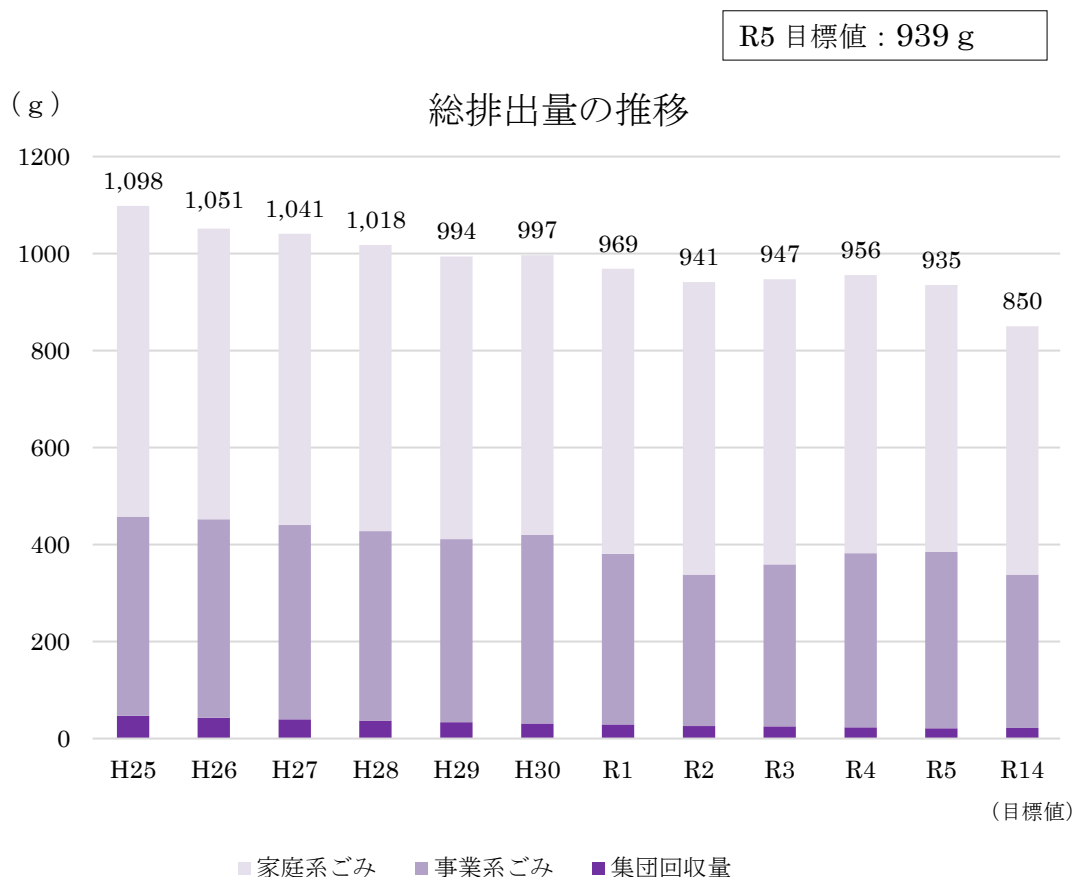
² 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×100）

※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破碎後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

³ 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破碎残さ量を含む）の合計

ア 総排出量

令和5年度の総排出量は1人1日あたり935gとなり、目標値と比べて4g(0.4%)少なく、目標値を達成しました。



≪目標値と実績値≫

【内訳】

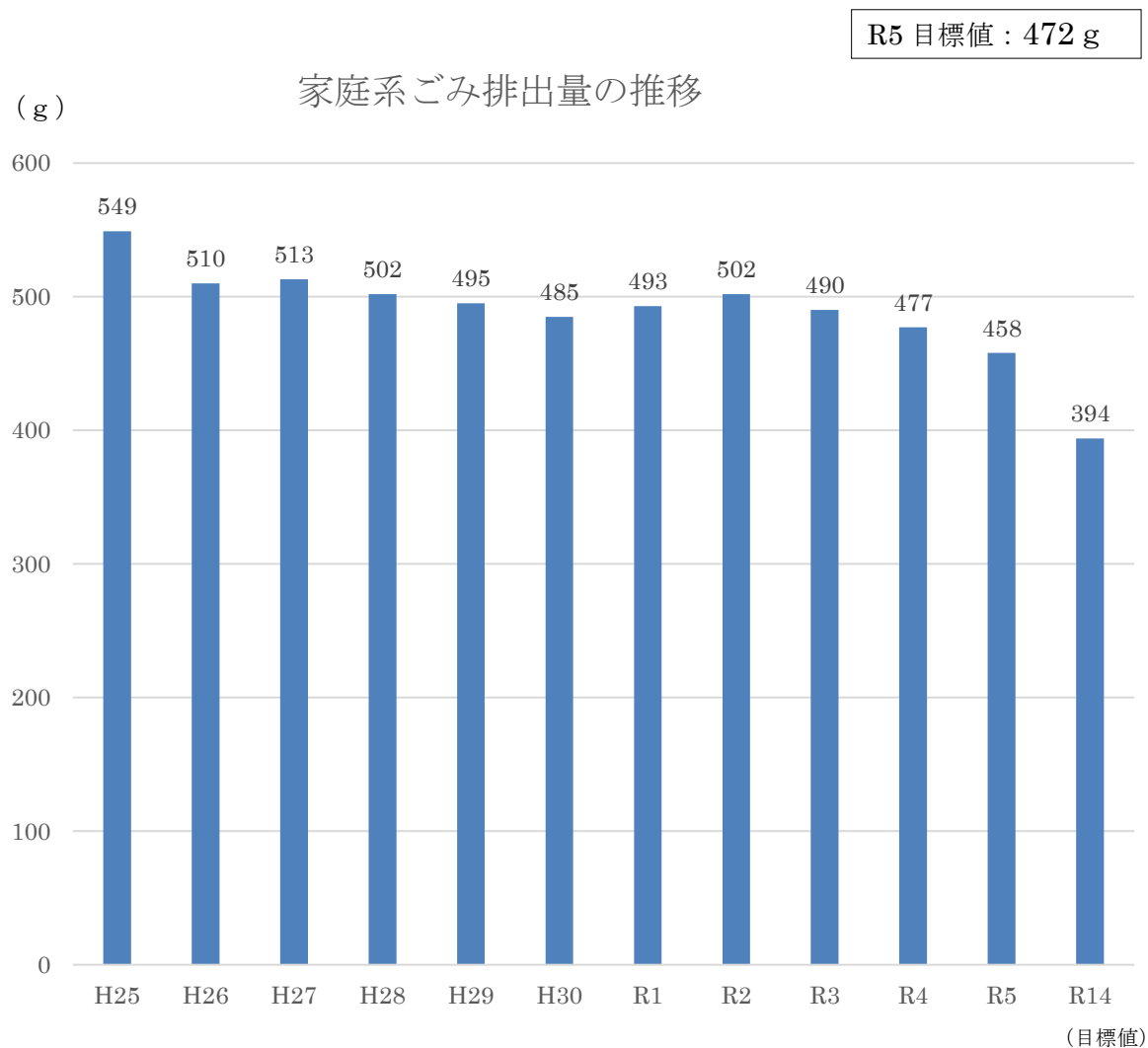
- ① 家庭系ごみ
目標：169,017 トン→実績：164,631 トン (▲ 4,386 トン)
- ② 事業系ごみ
目標：69,659 トン→実績：66,115 トン (▲ 3,544 トン)
- ③ 家庭系資源物
目標：43,783 トン→実績：40,120 トン (▲ 3,663 トン)
- ④ 事業系資源物
目標：53,863 トン→実績：64,336 トン (+10,473 トン)

【主な要因】

- ① 家庭系可燃ごみ収集量の減少 (▲3,027 トン)
- ② 事業系可燃ごみ収集量の減少 (▲3,531 トン)
- ③ 家庭系古紙・布類の集団回収量の減少 (▲1,227 トン)
- ④ 事業系木くず再資源化量の増加 (+10,832 トン)

イ 家庭系ごみ排出量

令和5年度の家庭系ごみ排出量は1人1日あたり458gとなり、目標値と比べて14g（3.0%）少なく、目標値を達成しました。



《目標値と実績値》

【主な要因】

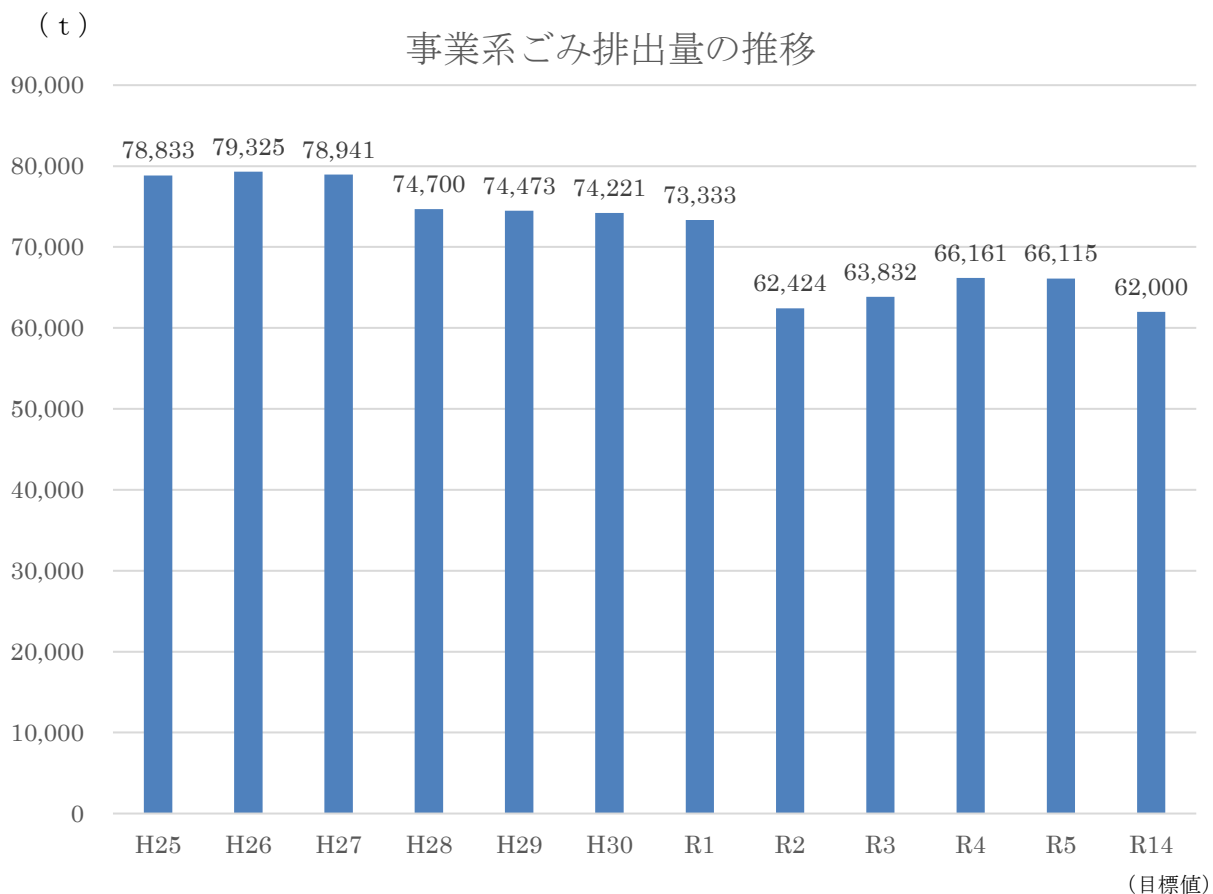
- ・家庭系可燃ごみ収集量の減少

目標：154,179 トン→実績：151,152 トン（▲3,027 トン）

ウ 事業系ごみ排出量

令和5年度の事業系ごみ排出量は66,115 t となり、目標値と比べて3,544 t (5.1%) 少なく、目標値を達成しました。

R5 目標値 : 69,659 t



《目標値と実績値》

【主な要因】

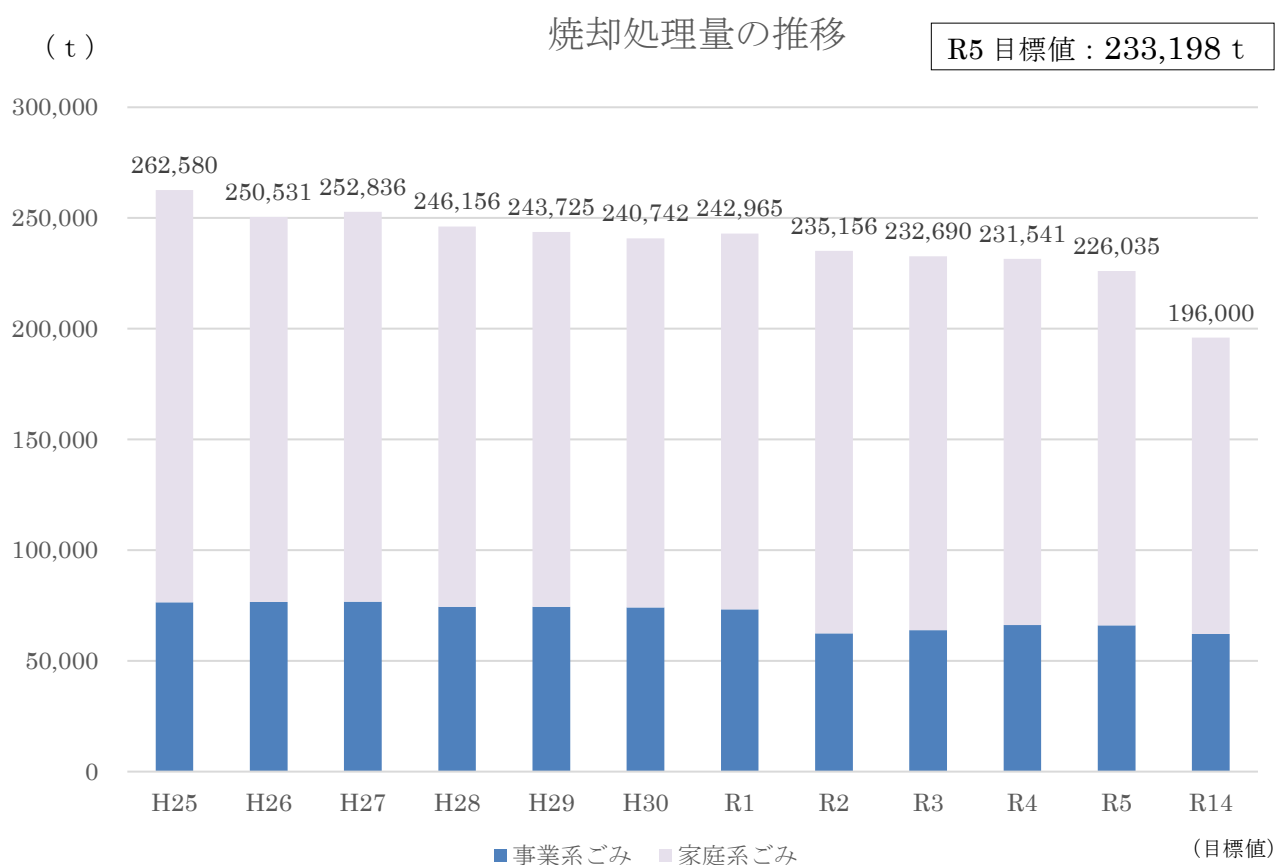
- ・事業系可燃ごみの収集量の減少

目標 : 69,633 トン → 実績 : 66,102 トン (▲3,531 トン)

エ 焼却処理量

令和5年度の焼却処理量は226,035 tとなり、目標値と比べて7,163 t（3.1%）少なく、目標値を達成しました。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は159,933 tとなり、目標値と比べて3,631 t（2.2%）少なく、事業所から排出される焼却ごみの量は66,102 tとなり、目標値と比べて3,531 t（5.1%）少なくなりました。



《目標値と実績値》

【内訳】

- ① 家庭から排出される焼却ごみ量
目標：163,564 トン→実績：159,933 トン（▲3,631 トン）
- ② 事業所から排出される焼却ごみ量
目標：69,633 トン→実績：66,102 トン（▲3,531 トン）

【主な要因】

- ① 家庭系可燃ごみ収集量の減少
目標：154,179 トン→実績：151,152 トン（▲3,027 トン）
- ② 事業系可燃ごみの収集量の減少
目標：69,633 トン→実績：66,102 トン（▲3,531 トン）

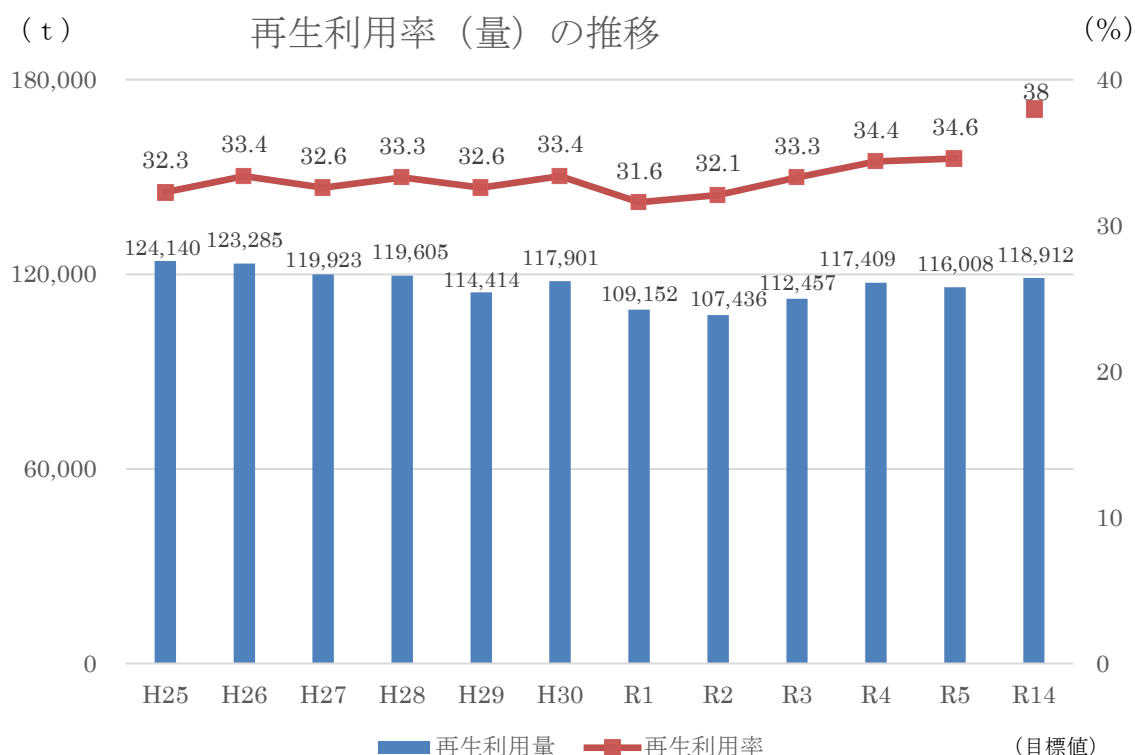
オ 再生利用率

令和5年度に家庭から出された資源物の再資源化量は、ごみステーションへの排出・集団回収・拠点回収を合わせて 40,120t となりました。

また、事業所から出された資源物の再資源化量は、64,336t となりました。

これらに焼却灰の再資源化等を含めた最終的な再生利用量は 116,008t で、このことから再生利用率は 34.6%となり、目標値と比べて 1.6 ポイント上昇し、目標値を達成しました。

R5 目標値：33%



《目標値と実績値》

【内訳】

① 家庭系資源物再資源化量

目標：43,783 トン→実績：40,120 トン (▲3,663 トン)

② 事業系資源物再資源化量

目標：53,863 トン→実績：64,336 トン (+10,473 トン)

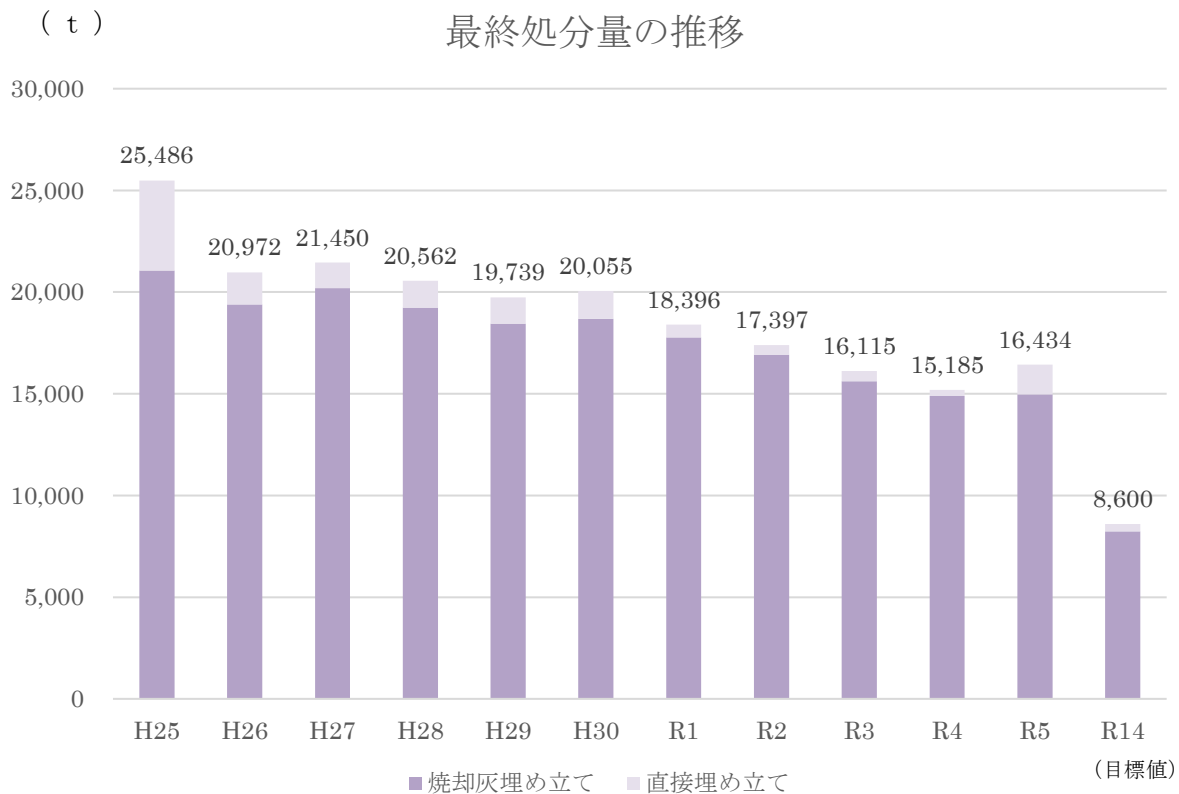
【主な要因】

- ① 家庭系古紙・布類の再資源化量(集団回収含む)の減少 (▲2,000 トン)
- ① 家庭系びん・缶・ペットボトルの再資源化量の減少 (▲813 トン)
- ① 家庭系剪定枝等の再資源化量の減少 (▲835 トン)
- ② 事業系木くず再資源化量の増加 (+10,832 トン)

カ 最終処分量

令和5年度の最終処分量は 16,434t となり、目標値と比べて 910t (5.9%) 多く、目標値を達成しませんでした。

R5 目標値 : 15,524t



《目標値と実績値》

【内訳】

- ① 焼却灰埋め立て量
目標 : 15,035 トン → 実績 : 14,967 トン (▲68 トン)
- ② 直接埋め立て量
目標 : 489 トン → 実績 : 1,467 トン (+978 トン)

【主な要因】

- ・ 民間への委託処理量の減少

キ 温室効果ガス排出量

令和5年度の温室効果ガス排出量は焼却ごみの組成変化等により 115,378t※となり、目標値と比べて 7,026t（6.5%）多く、目標値を達成しませんでした。

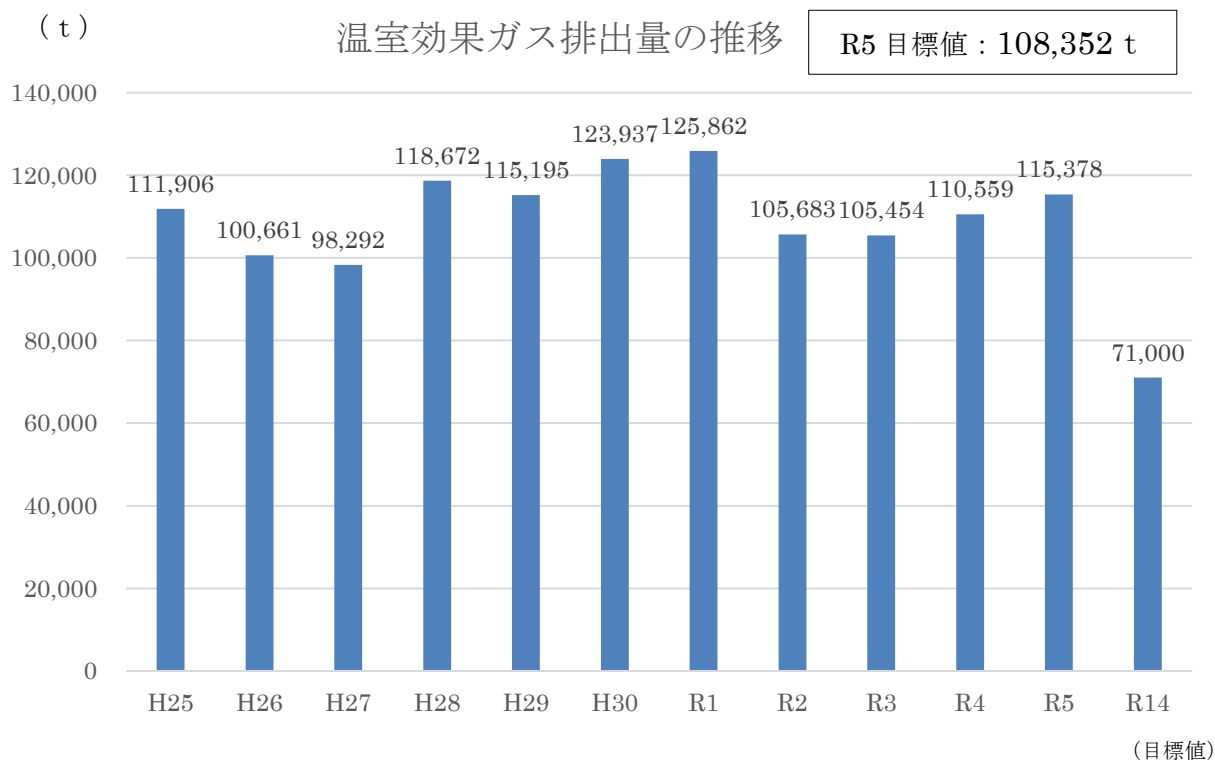
※数値は速報値（令和6年10月時点）のため、変更する場合があります。

表2：温室効果ガス排出量の内訳

（単位：t）

	清掃工場稼働 に伴う発生量 （A）	廃棄物の焼却 に伴う発生量 （B）	売電、熱供給に 伴う間接削減量 （C）	合計 （A+B-C）
目標	—	—	—	108,352
実績	1,230	130,932	16,784	115,378
実績－目標	—	—	—	7,026

※目標値は、全体の排出量のみ計上しています。



《目標値と実績値》

【主な要因】

- ・焼却ごみ中のプラスチック類の割合の上昇
 目標：北清掃工場 30.7%→実績：35.7%
 目標：新港清掃工場 26.0%→実績：30.0%